

5 好気性微生物の連携プレー を上手に引き出そう

—堆肥づくり作業のポイント



堆肥材料を混ぜて、水分・養分を最適にする

● 水分のめやす、副資材の混合の仕方

好気性微生物の連携プレーを演出して良質堆肥をつくるうえでまずだいじなのは、水分です。三角かごなどでよく水を切りますが、大きい野菜くずなどは細かく刻むこと、天日干しするか新聞紙に包むことなどを組み合わせると有効です。

次に、副資材には、水分を減らし空気相（酸素）をふやす、微生物のエネルギーとなる炭水化物を供給する、微生物そのものを供給する、悪臭発生を減らす、などの意味があります。とくにたんぱく質の多い生ごみの場合、酸素が不足すると分解が止まり、悪臭と虫が発生しやすいので、 の役割が大切



水分60%の状態
握るとかたまりができ、水が出ない



水分70、80%
強く握ると指の間から水が出る

です。

空気相補給と エネルギー補給には、落ち葉やわら、おがくずなどの植物質資源が有効で、落ち葉には 微生物供給の効果もあります。米ぬかは栄養が多く に高い効果があります。完成した堆肥は と に威力を発揮します。

混合物を握るとかたまりができ、強く握っても水が出ない状態が水分60%で、最適です。指の間から水がしたたるようでは、70、80%と高く嫌气的条件になってしまいます。